

未来の図書館 研究所

NEWS LETTER

No.12



- LoFR オープンレクチャー「時代に対応する図書館とは何か」のご案内
- 研究所 TOPICS
- 英語多読における公共図書館への期待/江竜 珠緒
- 公共図書館での資料への自由なアクセス/永田 治樹 (Library Compass 第8回)



開催決定 未来の図書館 研究所 オープンレクチャー (LoFR Open Lecture) のご案内

時代に対応する図書館とは何か

ーアメリカの実践から考える

講演者 豊田 恭子 氏(北海学園大学非常勤講師)





1990年代半ば、インターネットが登場し、時代がアナログからデジタルに大きく舵を切ろうとした時、アメリカの図書館界はそれに呼応すべく、図書館サービス法を改正し、新時代における新たな図書館の役割を再定義した。社会の分断が叫ばれる昨今においては、地域の再建者としての活動を強化すべく、今また新ビジョンのもとに日々奮戦している。社会ニーズを積極的に取り込んでいこうとするこうした姿勢は、人々の図書館への評価を高め、予算を増やす成果につながった。こうした実践から私たちが学べることは何なのか。今日の日本の図書館界が抱える課題を解決するヒントを得ることはできないか。参加者との議論も交えながら、考えてみたい。

▼ 本講演に関連する書籍『闘う図書館:アメリカのライブラリアンシップ』(筑摩選書)発売中です

日 時

2023 年 **7** 月 **21** 日 (金) **14**:**00**~**15**:**30** 定 員 **50** 名 (先着順・事前申込制)

開催方法

Web 会議サービス(Zoom)によるオンライン開催のみとし、会場での開催は行いません。 申込フォームhttps://www.miraitosyokan.jp/future_lib/lecture/202307/>または、

右記 OR コードからお申込みください。※参加申込受付は当日 11:00 まで。



研究所 TOPICS



■「令和4年度世田谷区立図書館マネジメント能力向上研修」の講師を担当しました

2023 年 $I \sim 2$ 月に全 2 回で開催されました,世田谷区立図書館の館長向け研修の講師を,副所長の戸田が担当いたしました。区立図書館の現状についての SWOT (S:強み, W:弱み, O:機会, T:脅威) 分析や,他自治体の事例調査などを経て,「S・O を活かした新しい取組み」について考え,発表するグループワークを行いました。

2023 年 5 月に、今号も引き続き書籍として樹村房より発売しています。未来の図書館研究所主催シンポジウム「図書館とコミュニティアセット」記録のほか、地域・コミュニティの人々の記憶を収集し記録する取組みや、関連する論考をとりまとめました。詳細・ご購入については、右記 QR コード、または樹村房 Web サイトをご覧ください。 ISBN978-4-88367-381-0 ▶ https://www.jusonbo.co.jp/books/290_index_detail.php





英語多読における公共図書館への期待

江竜 珠緒(明治大学付属明治高等学校中学校 司書教諭)

◆はじめに

かんたんな英語で書かれた本を大量に読む「多読」が広がりつつある。個人の実施では金銭的な負担が大きいため、『図書館多読への招待』¹⁾をはじめ、利用者側からの公共図書館に英語の本を!という声も増えてきた。一方で、図書館側としては予算や排架場所、そもそも排架したところで利用者が少ないのではという懸念から、なかなか実施に踏み切れない場合もあるようである。

私立の中学校,高等学校図書館で英語多読本を排架し,英語科教諭とともに英語多読指導を推進して 10 年以上になる。この間,多くの学校図書館,公共図書館の方々と話をしてきて,自分なりに考えることがあった。そこで今回は中学校,高等学校の立場から,公共図書館への期待を述べてみたい。「多読」では日本語の本の多読も含まれるため,ここでは「英語多読」という語を用いる。

◆英語多読とは

そもそも英語多読(Extensive Reading)とは、じゅうぶんに英語力を身につけた「読書=趣味」という人が娯楽や教養のためにディケンズやオースティンを読むようなことは意味しない。英語の語彙力や文法力、読解力に欠けている人が、たくさんのやさしい英語の本を読んで、語彙や文法、読解力などの「英語力」を身につけようとする試みこそが、英語多読である。

複数の英語多読指導者や実践者が集まると,英語多 読が学習なのか読書なのかということが軽い議論になる ことがある。しかしこれは議論するようなことではなく、学 習としての英語多読も読書としての英語多読もあるのだ としたほうが良いと考えている。英語多読をやってみよう とする人の中には、語彙力や文法力を定着させることが できて英検やTOEIC取得点の向上につながるのなら英 語多読(学習)に取り組んでみたいと考えている方々と, 楽しみながら英語の本を読んでいるだけでいつか長編 が読めるようになるならすごいなあと思いながら英語多 読(読書)をする方々がいるからである。中学校や高等 学校で実施する英語多読においては,1 冊の中に平均 10 回以上同じ語が繰り返されているような学習用の Graded Readers (GR)を何冊も読めば単語帳をめくる よりも語彙の定着を図れると考えて英語多読学習を実施 するため,正確な読解を可能にする難易度の本を読むこ

とを重視する。一方,学校以外の場で英語多読に取り組む方々はどちらかといえば英語多読読書の傾向があり,完璧に理解するというよりもイラストに助けられながらざっくり物語の筋をつかんで楽しめる本を読むことを重視している印象がある。

つまり、ひとくちに英語多読といっても、どのような目的の人たちを対象にするかによって、排架する本は異なってくる。もしじゅうぶんに予算があるのであれば、文字のほとんどない絵本から GR はもちろんネイティブ向けの本までまんべんなく揃えることが可能で、英語多読学習に取り組みたい人にも、英語多読読書を楽しみたい人にも、さらには英語での読書を趣味としている人にも満足できる書架を作ることができる。しかし、それが不可能であるならば、最終的にはすべての人々が満足できる幅広い難易度やジャンルの英語多読本を揃えるにしても、導入段階では対象者を絞って英語多読本の選書をすることが現実的だと考えられる。

このことについて公共図書館の方とお話をすると、「公共図書館なのに優先的に揃えるレベル(難易度)があっていいのか悩む」「そもそも学習用のテキストを入れていいのかという悩みがあるので GR を入れにくい」という声を耳にする。海外在住経験が長く英語の本を読み続けたいと思っている人を除外したとしても、英語多読にどのような期待を抱いている人を対象にするのか(対象者を限定してよいのか)は確かに非常に悩ましいことであるだろう。



▲ 左側の GR のほうが右側の児童書よりも 難易度が低い(語彙、文法ともに)

◆英語多読本セットの団体貸出

そこで提案である。英語多読の導入段階においては、開架に並べる英語多読本ではなく、学校に向けて英語多読本のセットを作ってみてはどうだろう。これまで学校への団体貸出として学年別であったり、テーマ別であったり、学習用の知識本セットを作成したりしていたのと同様のことを、英語多読本で実施することはできないだろうか。

対象は中学 3 年次生以上(中学校または高等学 校)。ベネッセ教育総合研究所の「高 1 生の英語学習 に関する調査〈2015-2019 継続調査〉」2)では、全国 971名の高校1年次生のうち,538名(55.4%)の生徒 が,英語が「とても苦手」「やや苦手」と回答している。 複数の研究者が中学 3 年次に使用する英語教科書と 高校 1 年次に使用する英語教科書の難易度幅が広い ことを指摘しており 3),4),5), 中学校と高等学校で使用す る英語教科書における単語数や単語の難易度幅の広 さが,英語嫌いの高校生を生む要因となっている可能 性がある。中学 3 年次のうちに語彙数を増やしておく か, 高校 1 年次のはじめに不足している語彙数を増や し、その後3年間英語多読を継続するか。中学3年次 と高校 1 年次で使用する英語多読本の難易度は異な るが,いずれにせよこの時期にインプット量を増加させ る英語多読本を読むことの意義は高い。それがわかっ ていても英語多読に取り組めない, 学校図書館予算で は英語多読本が買えないという学校に対して英語多読 本の団体貸出セットが用意されていたら,英語科教諭 にとっての強力な支援となる。

学校向け団体貸出のために準備する英語多読本の最低限の必要冊数は,仮に1クラス30人であれば,難易度の低い総語数500語の本を60冊,プラス10冊程度の70冊。これは授業中の10分間×3回/週,英語多読を実施すると仮定した場合である。週3,000語は年間約10万語。理想的な英語多読としては少ないが,中学校英語教科書の平均総語数は4,000~7,000語弱であるため6,教科書と並行しての英語多読であれば英語力の向上が見込めるインプット量である。10分間の確保が困難であるなら,5分×3回/週でも年間約5万語。何もしないよりは断然ましてある。

異なるタイトル 70 冊のセットを 3 種類,学校数分作る(地域に 7 校あるなら, A, B セットをそれぞれ 2 つと C セット 3 つで 7 校分)。年度はじめに各校 1 セットを配送して,それを学期ごと交換すれば,十分に授業が成立する。高等学校において複数学年で実施する場合や,1 学年を複数教員で同時授業展開している場合にだけ複数セットの貸出となるが,それでも 1 校 3 セット以上の貸出になることはまずないだろう。

長期休み中には団体貸出図書を回収して館内閲覧ができるようにしてあればなおよい。これまで公共図書館をあまり利用してこなかった中高生が英語多読を継続するために図書館を訪れ、生涯学習の場としての公共図書館を認識する良い機会にもなる。英語多読をしている中高生の姿を見て、自ら取り組もうとする一般の方々もいるだろう。おそらく1セットを作るための予算は5~6万円程度。学校への英語多読本の団体貸出は、対象者や難易度を限定することのジレンマに悩みながら借りるか借りられないか不明な英語多読本を排架するよりも金銭的にも安くすみ、さらには潜在的利用者の開拓にもつながる一石二鳥の試みになる可能性がある。

◆おわりに

世間一般で考えられている以上に、学校において中高生の英語力向上は喫緊の課題とされている。「大人になったら英語なんて使わないし」と言い訳のできる状況ではなく、「将来仕事で英語以外の言語も必要になるけど、とりあえず最低限英語くらいはできるようになっておかないと」という状況にあるのが現在の子どもたちだ。英語力向上のためのインプット量増加の重要性を認識しつつ、英語多読本がないために英語多読を実行できないでいる英語科教諭も多くいる。そのような教諭や生徒を支援するために、公共図書館の協力をぜひお願いしたい。

今回は字数の関係で、中高生に必要な難易度についてまで詳細に述べることはしなかったが、機会があれば、団体貸出のために必要なセット本の選書方法についても示し、公共図書館の方々とぜひ前向きな議論を交わしたい。

<注·参考文献>

- 1. 酒井邦秀, 西澤一編著. 図書館多読への招待. 日本図書館 協会, 2014, ix,186p.
- ベネッセ教育総合研究所."高 1 生の英語学習に関する調査 〈2015-2019 継続調査〉". https://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=5467, (参照 2023-05-26).
- 3. 及川賢. 検定教科書 (外国語科 (英語)) を通してみた中高間 のギャップ. 埼玉大学紀要教育学部. 2007, vol.56, no.2, p.73-80.
- 4. 根岸雅史. Lexile Measure による中高大の英語教科書のテキスト難易度の研究. ARCLE REVIEW. 2015, vol.9, p.11-12.
- 5. 大田悦子. Lexile Measure を用いた中高英語教科書の難易度比較. 白山英米文学. 2016, no.41, p.13.
- 6. 村岡亮子. 中学校検定教科書で学習される語彙, 学習されない語彙: 延べ語数, 異なり語数, 語彙レンジの視点から. STEP BULLETIN. 2010, 第 22 回 研究助成, p.187.

公共図書館での資料への自由なアクセス

永田 治樹

図書館のありようは時代によって変わる。私の子どものころの公 立図書館は蔵書規模が小さく,入館手続きも煩雑なうえ,閉架のシ ステムで資料は手軽には利用できなかった。今ではネットワーク検 索のおかげで、自宅からでも探索でき、また開架で気軽に手に取れ るようになった。図書館で求める資料を入手できるかどうかは、実は さまざまな内容を含む問題だ。上述のようなコレクションの整備やサ ービス方式だけでなく、ときには検閲・禁書などの問題につながる。 表現の自由を確保するために、公共図書館は人々のアクセスを保 障しようとするが、常に万全というわけではない。最近目にした書籍 から、図書館での資料への自由なアクセスを考えてみた。

最初はロシアの話題である。ロシア憲法には第29条第1項に 「何人も,思想および言論の自由を有する」とあり,第 5 項には「大 衆伝達の自由は保障される。検閲は禁止される」1と明記されてい る。しかし、現在アレクセイ・ナワリヌイらの反体制的活動は容認され ていないし,昨年末(2022 年 12 月)「反 LGBT 法」の施行により その種の出版物は発禁となった2。表現の自由は実質的には確保さ れてはいないとの報道記事も多い。図書館ではどのような状況なの だろうかと,図書館や美術館で働く女性が主人公だという書評にひ かれて,ダリア・セレンコ(著)クセニヤ・チャルィエワ(絵)の『女の 子たちと公的機関』(Девочки и институции, 2021) (邦訳, 2023年)を手にとってみた。

本書は、小説の体裁をとっている。文化機関 に雇用された彼女たちが,日々雑用をこなし, 人を集める企画や内部の辻褄合わせにも協力 して,うまくいけば上層部の功績となり,うまくい かなければ責任を負わされたりする。ときには 当局からプーチンの写真が届けられてそれを 市民が出入りする部屋すべてに掲げろといった 指示が降りてくることもある。あくまでも二次的 な存在の彼女たちの日常が「ドキュメンタリー 的な要素と詩的な表現」3で綴られている。



"Moscow Times" (March 20, 2023) のヴァシリーサ・キリロチキ ナ⁴によると、上記の「反LGBT法」に関連して、村上春樹などが対 象になっていたが、その撤去指示は電話か署名のないリストにより 行われ,不都合な場合には図書館員の主導によるものだと言い逃 れできるようにしているという。ロシアでは、国家反逆罪やスパイ罪、 あるいは偽情報防止の法令によるだけでなく,狡猾に表現の自由 の侵害が行われている5。

もうひとつはアメリカの状況である。1982 年以来というからもう 40 年以上も、アメリカ図書館協会 (ALA) が毎年 Banned Books Week (禁止本週間,禁書週間)を設け,図書館員,書店,出版社, ジャーナリスト,教師,読者などを集めて,表現の自由を支えていく 運動を行っている。合衆国憲法修正第 1 条に定められた表現の自 由が図書館をめぐり侵害されることが起きるからである。"The State of America's Libraries 2023"によると, 2022 年における検 閲された図書数が2571件で、一昨年に比べ倍増しているという6。 大多数は LGBTQ+,黒人,先住民,有色人種に関わるもので,例 えば、トップ 3 位にあげられたノーベル賞作家トニ・モリスンの"The Bluest Eye"(邦訳『青い目がほしい』)のような白人の価値観を問 い質すものは不適切だとされるで。

トランプ政権の誕生によりマイノリティへの攻撃が激しくなり、禁書 の動きを勢いづかせたようだ。ただし、ポリティカル・コレクトネスを唱え 是正を求めるリベラル側が過去の言動などを理由に該当人物を糾弾 し、銅像を壊すといった動き(「キャンセルカルチャー」)が、それを煽っ てしまったかもしれない 8。いずれも、ソーシャルメディアを活用し、自ら の陣営に正しさがあるとして相手方を徹底的に陥れる姿勢をとる。そ こには対話の余地がうかがえず,社会の分極化を拡大させるだけで (そのあおりで,図書館員や教員の職務に攻撃が仕掛けられる),批 判的な情報を含み込み社会を発展させていく姿勢にはない。

ロシアとアメリカの状況を図式的にみれば,一方は国家の力で,他 方は政治や宗教などの市民グループの活動により当局を焚き付け、 その目的を達成する。前者は一律だが、後者は地域によって差が生じ る。わが国に引きつけていえば、アメリカのように宗教や政治の対立が 明確なわけではないが、しかし人々の声をうかがいつつも、例えば『は だしのゲン』の場合も『絶歌』の場合も,地方公共団体が関わった。地 域によって異なるという点はアメリカ的だ。意外だったのは、昨年文部 科学省の「北朝鮮当局による拉致問題に関する図書等の充実に係る 御協力等について」という事務連絡である。禁書ではなく充実という 方向だが、国の図書館の選書行為への「介入」といえなくもない%。

現代の禁書運動にしても「キャンセルカルチャー」にしても、基本的 にはソーシャルメディアなど情報ネットワークによって増幅し問題化し ている。しかし、ウェブ社会になっているにもかかわらず、禁書として限 られた地域での差し止めが提起される。これに対して,例えばニューヨ ークのブルックリン公共図書館では、禁書となった書籍を州内外の利 用者のスマホなどに提供するサービスを行っている 10。このような表現 の自由の確保,読者支援もある。

<注·参考文献>

- 1. オリガ・ベロスルドヴァ「ロシア憲法(2020 年改正後・日本語訳) https://olga.tokyo/ロシア憲法 (2020 年改正後・仮日本語訳)/(参照 2023-05-17)
- 2.「『反 LGBT 法』ロシアで成立へ 報道や映画、ほぼ全面禁止の恐れ」 (『朝日新聞』2022 年 10 月 27 日) https://www.asahi.com/articles/ ASQBW6SJZQBWUHBI02R.html (参照 2023-05-17),および小泉悠 「立法情報: 【ロシア】ゲイ・プロパガンダ禁止法の成立」 (『外国の立法』 (2013.8)) https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_8262622 po_02560207.pdf?contentNo=1 (参照 2023-05-17) 3. 高橋聡子「訳者まえがき」『女の子たちと公的機関』エトセトラブックス,
- 2023, p.3.
- 4. Vasilisa Kirilochkina, Books Removed and Movies Banned Under Russia's 'LGBT Propaganda' Law. The Moscow Times. https://www. themoscowtimes.com/2023/03/15/books-removed-and-movies <u>banned-under-russias-lgbt-propaganda-law-a80444</u>(参照 2023-05-17)
- 5. ちなみに筆者はクリミア併合の数年後 2019 年夏にサンクトペテルブルグの マヤコフスキー記念市立中央公共図書館を訪れた。執務中の司書から財政 的な訴えはうかがえたが、それ以上の状況を推し量ることはできなかった。
- 6. American Library Association. The State of America's Libraries, 2023. https://www.ala.org/news/sites/ala.org.news/files/content/ state-of-americas-libraries-report-2023-web-version.pdf(参照 2023-05-17)
- 7. Deborah Caldwell-Stone, 2022; a year of unprecedented challenges,
- op. cit, p.4·5. 8. 「『キャンセルカルチャー』が流布する理由 米国社会の分断を読み解く」 (『朝日新聞』2022 年 10 月 21 日(前嶋和弘へのインタビュー記事)) https://digital.asahi.com/articles/ASQBN5195QBJUHBI035.html (参照 2023-05-17)
- 9. 文部科学省からの拉致問題に関する図書充実の協力等の要請について: 公益社団法人日本図書館協会の意見表明. <u>https://www.jla.or.jp/</u> demand/tabid/78/Default.aspx?itemid=6548(参照 2023-05-17)
- 10. Read whatever you want; Brooklyn Public Library's Books Unbanned. Public Libraries, 2023, p.20-28.

編集·発行:株式会社 **未来の図書館 研究所** 〒113-0033 東京都文京区本郷 4-9-25 2階 URL: https://www.miraitosyokan.jp



∞info@miraitosyokan.jp ☎ 03-6673-7287 FAX 03-6772-4395 ¶ https://www.facebook.com/miraitosyokan/